

# デジタル学術空間の作り方

仏教学から提起する次世代人文学のモデル

下田正弘 永﨑研宣 Masahiro SHIMODA

nori NAGASAKI



### 経 テキストデータベース

## संगणिकीकृत तैशात्रिपिटव

Saṃgaṇikīkṛtaṃ Taiśotripiṭakaṇ

The SAT Daizōkyō Text Database

# SAT大正新脩大藏經テキストデータベース

智慧の宝庫、『大正新脩大蔵經』の 第1巻から第85巻までの全テキストをデータベース化

### 新着情報

- 2019/10/4、第八回丸善雄松堂ゲスナー賞「デジタルによる知の組織化」部門でSAT大正新脩大藏 經テキストデータベース が金賞を受賞しました。
- 2019/9/8、法定停電のためアクセスできなくなりますのでご注意ください。
- 2010/2/19 IIICに対応したデジタル学術經復医構築のための新機能を追加しました 詳細ロフモ



- SAT大正新脩大蔵經テキストデータペース2015版 (SAT 2015).
   (科学研究費補助金助成事業:仏教学新知識基盤の構築―次世代人文学の先進的モデルの提示(基盤研究(S)) (JP15H05725))
- SAT大正新脩大蔵經テキストデータベース2012版 (SAT 2012)
- SAT大正新脩大藏經テキストデータベース2007版 (SAT 2007)
- 大正新脩大藏經図像部データベース:SAT大正蔵図像DB
- 関連サイト:
  - 。 万暦版大蔵経 (嘉興蔵) 画像データベース
  - Indo-Tibetan Lexical Resource

大蔵経テキストデータベース委員会は、『大正新脩大蔵経』出版元の大蔵出版株式会社からの全面的な信任を得て、本データの作成と公開を行っています。

### SAT大正新脩大藏經テキストデータベース2012版(SAT 2012)について

SAT大職經テキストデータベース2012版(SAT 2012)は、デジタル媒体の時代にあわせた大正新脩大職經の利便性の向上をめざし、学術情報 の集積と閲覧の方法について、当研究会による現時点までの研究の成果を可能なかぎり反映させたものとなっています。その主要な柱は、(1)典拠についての信頼性の確保、(2)研究者による持続可能なコラボレーションシステムの構築、(3)個々の独立性を尊重した研究プロジェクト間の連携の実現、そして、(4)これら諸機能を統合的に利用しうるインターフェイスの提供、の4つです。以下に説明しますように、いずれも現在、世界で進められている人文情報学(Digital Humanities)の最先端の研究事例の一つとして諸学会で発表して評価を得たものであり、学術的に高い信頼性に裏づけられています。これらの事業は、(5)に示すとおり、国内外の諸学術団体、公益法人等と共同しつ、国内外の研究者、大学院生の力を結集して進められています。

### (1) 典拠についての信頼性の確保

仏教学において、『大正新術大線製店」は出版以来、研究の国際標準典拠として国内外で広く用いられてきています。それは近代人文学に ふさわしい形態を有し、研究成果の共有にとって必須の前提となる「位置情報」を提供しつづけることによって、研究の場全体を支える 役割を果たしてきました。媒体が苦物からデジタルへと転換するとき、研究の継続性無持のため、この位置情報を確保することは重要な

大正新 脩 大蔵経テキストデータベース・トップページ http://21dzk.l.u-tokyo.ac.jp/SAT/ prologue

情報通信革命と人文学の課題(下田正弘) 1. 人文学にいまなにが起きているか/2. デジタルの学知の特性/3. 具体的課題と解決の方向性
第 ] 部 デジタル学術空間の作り方
chapter.01       017         デジタル学術空間の作り方       SAT 大蔵経テキストデータベース研究会が実現してきたもの(下田正弘・永崎研宣)
1. はじめに―「SAT 大蔵経テキストデータベース研究会」前史― 017
2. SAT 研究会の方向転換と国際連携 020
3.新学術領域「人文情報学 Digital Humanities」の構築と SAT の進路(022)
4. 完成までの取り組み 025 4-1. 校正作業のための Web コラボレーションシステム/ 4-2. 外字データベースの 構築と運用
<ul> <li>5. 研究基盤の提供と連携に向けて 032</li> <li>5-1. Web データベース初版の開発/5-2. 2012/2015 年版/5-3. 図像編のデータベース化/5-4. 万暦版大蔵経(嘉興蔵) デジタル版の構築/5-5. IIIF Manifest for Buddhist Studies (IIIF-BS) / 5-6. SAT-DB 2018 年版/5-7. リンクによる協働語彙集 ITLR の構築</li> </ul>
6. 国際標準へのかかわり 088 6-1. Unicode への登録 / 6-2. Text Encoding Initiative の導入に向けた取り組み / 6-3. IIIF へのかかわり
7. 内容の分析 101
8. SAT-DB への反響 104
9. SAT の現在―デジタル環境における仏教学 107 9-1. 成果への評価/9-2. オープンアクセス/9-3. 研究資料・データのオープン 化/9-4. 成果公開の持続可能性/9-5. 次世代人文学のための研究基盤とは/9-6.

SAT-DB と人文学のためのデジタル研究基盤のこれから

.....007

# 第 2 部 仏教学とデジタル環境から見える課題

はじめに(下田正弘・永崎研宣)・・・・・・143
I デジタルコンテンツを作る・使う
Chapter.02 151 仏教論理学研究の現在と人文情報学 (小野基) 1. はじめに/2. テクストの電子化など/3. KWIC索引―今後も作る価値はあるか―/4電子テクストの適正化/5. 新出梵文写本の登場/6. 梵文再建とフラグメント蒐集/7. 今後の課題と展望
文字検索のさらなる地平に向けて         文字列の散在的一致を網羅するために(船山 徹)         1. 序説/2. 文字検索の価値/3. 文字検索の二種/4. 現時点での対策/5. 「散在的一致」一文字検索が現在不可能な事例/6. 提案したい結論
chapter.04         仏典の切れはしを読む方法         「根本説一切有部律薬事」新出サンスクリット写本の研究とデジタルデータ(八尾 史)         1. はじめに/2. あらたに発見された根本説一切有部律サンスクリット写本の研究/3. おわりに
chapter.05       199         諸版対照テキストと註釈対象語句索引の作成をどうすすめるか       Samantapāsādikā の研究基盤を整備する(青野道彦)         1. はじめに/2. 諸版本対照テキストの作成/3. 註釈対象語句索引の作成/4. 将来の構想―伝統内在的なテキストの再現
chapter.06       211         いるはいままうまん ぎ       一切 経 音義全文データベースの構築と研究(李乃琦)         1. はじめに/2. 先行研究/3. 『一切経音義』日本古写本/4. 「一切経音義全文データ

chapter.07225
チベット語大蔵経データベースの利用および本邦に伝存する漢語大蔵経とその調査の重要性と可能性(宮崎展昌) 1. はじめに―チベット語大蔵経および漢語大蔵経の来歴の概略 / 2. チベット語大蔵経の「仏説部」(カンギュル)のデータベースとそれらによって参照可能な諸本資料 / 3. 日本に伝存する写本および版本大蔵経―それらを実際に調査することの重要性と可能性 / 4まとめにかえて
chapter.08253
引用出典検索・読解とデジタル化
── <b>曹洞宗学におけるデジタルアーカイブの活用(石井清純)</b> 1. はじめに / 2. 道元研究とテキストデータベース / 3. 曹洞宗典および関連史料と画像データベース / 4. 禅学研究の学際的・国際的展開─仮字『正法眼蔵』を中心に─
II 研究基盤を作る
chapter.09263
中世の手書き写本の OCR 翻刻テスト報告
(養輪顕量/研究協力者: ジッリオ・エマヌエーレ・ダヴィデ、余新星、田中翔悟) 1. はじめに/2. 最初の試行/3. 第二の試行/4. 第三の試行/5. 人間による文字の 読解との比較を通じて/6. おわりに
chapter. 10275
意りん 慧琳撰『一切経音義』の符号化をめぐって(王一凡) 1. はじめに/2. 資料としての慧琳撰『一切経音義』/3. デジタルテキストにおける文字/4. 紙本からみた符号化/5. 技術からみた符号化/6. まとめ
chapter. 1 1
電子テキストの有効利用に関する雑感 — 文献資料のモデル構築の可能性(宮崎 泉) 1. はじめに/2. 研究対象としてのテキスト/3. テキストと漢字/4. テキストと書誌情報/5. おわりに

chapter. 12311
サンスクリット文献電子データについての雑想(苫米地等流) 1. はじめに/2. 電子テキストデータベースかリポジトリか/3. 還元梵文によるデータのコンタミネーション/4. 最後に、テキストの構造化について
chapter. 13317
蘇州西園寺蔵『大正新脩大蔵経既刊分一覧』(昭和五年四月現在)に 見られる刊行予定書目 付"大正蔵刊行予定書目"と現行『大正蔵』の比較 (落合俊典)
1. 蘇州西園寺と「藏經樓」/2.『大正新脩大蔵経既刊分一覧』(昭和五年四月現在)に 見られる刊行予定書目/3. 大正蔵の全体像を知ろうとした人物/"大正蔵刊行予定書目" と現行『大正蔵』の比較
chapter. 14363
研究者による情報発信としての「学術ウェブサイト」の評価の行方 (高橋晃一)
1. 研究者による情報発信はもっと積極的にされてよい/ 2. 2001 年の研究者自身による「オープンアクセス」/ 3. 個人運営のデータベース Digital Dictionary of Buddhism / 4 XML、TEI / 5. 電子データをどう提供するか
columm·····371
デジタル学術空間の未来に向けて 縦割りではなく協働的な体制へ(大向-輝)
1. はじめに / 2. デジタル情報の固定化 / 3. オープンサイエンスと研究データ / 4. 人文学におけるデジタル学術空間
epilogue ······377
人文学の将来(下田正弘) 1. ある仏教思想研究者の批判から/2. 人文学の使命
執筆者一覧 381